広報こすど
発行所 小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
印刷発行 編集人 矢部藤三郎

風変わりな正月の思い出

守門岳での正月

現在でも正月頃の守門岳へ登る人は少ない。

「雪の砂漠」といわれる守門岳は、真冬には三丈からの雪が降る。三日も四日も時として一週間も降り続き昼夜の区別がつかない程だ。すいてる山小屋で朝風呂に入りながら、疲れをいやす正月も又格別な趣きである。

僕達が守門岳で迎えた正月は実に静かな朝だった。きのうまでの雪との戦いも終り、疲れきった身体を小屋の囲炉裏端に横たえ、榾火を見つめていた。

五カ月に及ぶ計画のうえに遂にやりとげた満足感にあふれた正月。山を志し精進する人の大きなあこがれであり、逃げることのできない誘惑の冬山……

年末の雑踏を逃れるように山へ向かった。十一月に二回荷上げを行ったものの、背中の三十キロ以上の荷は肩にくいこみ胸迫もある雪にあえぎながら、夏なら二時間ほどの道を、山小屋にたどり着いたのは、鉛色の空の端から暮れ始めていた。二階の窓から出入りする山小屋も、シャンデリヤのきらめく部屋よりは数倍も居心持の良い憩いの場である。

静かな山小屋で、自分達のついたモチで正月を祝う時、せせこましい繁雑な下界とは、甚だしい距たりをつくづく感じさせる。

三年ほど山で正月を迎えたが、最近はいろ〳〵雑用も多く、巷で味気ない正月を過ごしている。（K生）

中支で迎えた正月

所は中支の武昌（新潟市のような町である）の郊外で身はほりよの頃である。

明日の命もどうなるか判らない。言葉と言葉がぶつかれば、なぐるけるの火花の散るようなとっくみ合のけんかとなる。どうしようもない、やぶれかぶれの心境が、焼きもちのようにふくれ上がって爆発するのである。

空腹の切なさは、ふる里の「もちつき」のことやだんごやおはぎ、あらゆる喰べものの話しをちんれつし合って、出もせぬだ液をごくんとのみこんで、その時どきのひもじさをすごしている。

たまに盃一杯の酒が手に入ろうものなら、なめずりなめずり、いつまでたってもその盃をはなさない。そして日本のふる里で眺めた、ちっとも変らぬ天の川や北斗七星をあおいで、ごう泣してはじたんだふんだり、生きていることを忘れるような日々だった。

ただ親や、妻子のいる我が家へ帰りたい願いのそれ一つだけ。空とぶ鳥がうらやましく、づっと見おくり見えなくなったら、声はり上げて泣いてしまった。びた一文の収入もないのだが、不思議にふところ具合があったかく、満腹感を感じているのもいるのである。だれもそのことにはふれ合わない。息の根を殺したような沈黙である。

殺風景であった宿舎が更に殺風景になっていくのに気がついた。

昨日まであった部屋の寒暖計がない、洗面器の数が減っていく。そう思えば医務室のよく切れるハサミもない、いつ誰がどのようにするのか、只すーっとなくなるのである。なんのことはない、それは誰かがそっとぬすんで売り喰いしているというわけ。

まだその頃、たばこが配給されていた。たばこ好きの自分には命のつなだったが、配給されたわずかの食事には事足りず貧農の部落民から交換して喰べた時は無我無中、なんのねばりも味もない今思えば我鬼道で迎えた正月であった。（I氏）

遅刻は浪費のもと

新牛入選標語

「猛虎一声」　佐藤正雄書

時　1月15日 午前9時より　所　小須戸町公民館

新春町民囲碁将棋大会

会費　50円　入賞　各五等までとする

共催　小須戸町囲碁将棋クラブ・小須戸町公民館

生活改善に公民館結婚を

矢代田壹屋徳一

生活様式の改善に伴なって、儀式の多くが年々簡素化されてゆくのは全国的な傾向だが、特に時代の移り変わりと共に結婚式の形も大きく変わってきて、近頃ではテレビ結婚式というショー的なものまで出てきたが……

当町でも生活改善の一環として、早くから奨励されている公民館結婚も「公民館役員、婦人会、青年会」を中心にして合理的な推進を行っているがその公民館結婚は、関係者の熱意をよそに意外に低調な現状であることは誠に残念なことである。

先き頃、矢代田で始めて一組の公民館結婚式を目出度く挙式されたが、現在の公民館などの公共施設の完備充実されていない中に、卒先、先便を取られたことは当時者は勿論のこと、御両家の深い御理解があって始めてその先便を取られることであって、この点本当に高く評価されなければならない。今まではやや件は異るが人口も町の大きさも当町よりやや大きい位の町である。この余れたり、又他人に見せるものという考えで数十万円使って式服を整えたという時代は、もう昔の語り草のようだ。

それでは、なぜ当町が他町村より低調なのか…原因は種々あると思うがそれはさておいて、私が旅行した時、聞いて来た公民館結婚の状況を紹介して見よう。

ここは山形県東田川郡余目町のことで、立地条件は異るが人口も町の大百円、これには膳椀や汁器類も入っている。貸衣裳が千五百円から二千円テーブル用白布の洗濯代が一枚三十円、その他媒酌組、今年はすでに十五組挙げられ、十一月だけで代は実費となっており、

使用料は会場費一回六百円、これには膳椀や汁器類も入っている。貸衣裳が千五百円から二千円テーブル用白布の洗濯代が一枚三十円、その他媒酌組、今年はすでに十五組挙げられ、十一月だけで代は実費となっており、

ある云う勢況である。

同館はホールの外に六十畳敷の日本間があり、そのほか三三九度用の汁器や披露宴用の徳利や盃など総て揃っているため無理をすれば百人近くの客を収容できる。

公民館結婚専属の写真屋さんまで配属されている、と云う。

一方、招待者側は持参する祝儀は原則として三百円、酒は一人あたり三・六デシリットルと決まり引出物の無いのは当然だが、とかく起りがちな二次会や三次会などもないといわれている。

式の内容も自ら変わって、神前結婚に見られる神事はすべて省略されて代表者が司会者になって花束、記念品の贈呈、新郎新婦の紹介があって、新郎新婦が誓いの言葉を読みあげる。この誓いの言葉の内容はいろいろあろうが、一同の前に披露して式が終る。

式がすめば披露宴となるが、希望さえあれば司会役を公民館の職員が、いっさいの世話を引き受けてくれる。

いろいろの経費を含めて一万六千円から二万円あれば立派な結婚式ができ経費も少なく、しかも有意義にすむところから、折角形式主義をなつかしみ尊びがちな年配者たちからも好評を受けていると云うことであった。

さて、ここで当町の公民館結婚を盛り上げ、合理的で創造的にするにはまず公民館で貸衣裳や汁器、徳利、盃など施設や汁用具を整備された会場を一日も早く造って、生活改善のため本格的に動きだすことが、先決問題でなからうかと思う。

小須戸風土記

柏大治

山手の神社

戦後は神様もあまりばっとなさらず、神社もやっかい扱いされている所もあり、社地二十二歩、除地諏訪宮竪二間三尺横二間、社殿二十六歩と立派なお宮上、天王叢祠社地九十歩元禄末建立とされて、元禄の帳留にない新規のお宮様ができています。祭神は不明です。

くだって明治十四年の皇国地誌には神明神社は本殿、幣殿、拝殿と更に立派になっており、元亀三年の開基といい、一方諏訪社の方は応徳年中、中野五平太郷国が信濃より奉戴勧請すると、時代の違うとんでもない由緒が記されています。

天王叢祠の方は八坂神社、神明、諏訪大明神無社宮地ばかり明暦二年（三〇二年前）開基となっており、誠にお粗末なことですが、湯川村と分村直後のことで、村として祭神の形式を取ったばかりの状態が記録されていますが、元禄十九年から約百年後の寛政二年の村々宮社沢書上帳には神明宮竪二間横三間社地二十二歩、除地諏訪宮竪二間三尺横二間、社地二十六歩と立派なお宮様になっています。その元禄末建立とされて、元禄の帳留にない新規のお宮様ができています。祭神は不明です。

くだって明治十四年の皇国地誌には神明神社は本殿、幣殿、拝殿と更に立派になっており、元亀三年の開基といい、一方諏訪社の方は応徳年中、中野五平太郷国が信濃より奉戴勧請すると、時代の違うとんでもない由緒が記されています。

天王叢祠の方は八坂神社、神明叢祠、神明叢祠、諏訪大明神叢祠二尺四面延宝二年（二八三年前）いづれも別当金津村の大覚院となっております。

寛政九年の書上帳になりますと神明宮、神明叢祠、神明叢祠、神明叢祠五尺四面承応三年（二〇四年前）開基、八幡承応三年開基、三社権現寛文七年開基

寅年に寄せて
虎に因んだことわざ集

虎の威を仮る狐

権勢のある者の威光をかさにきて、自分自身が強大であるかのようにいばっている小人物をたとえていう。

百獣を求めて食うという**とら**が、ある日一匹の**きつね**をつかまえた。すると、**きつね**は賢い動物だから「あなたは私を食べることはできません天帝が私を百獣の長に任命したのです。今、あなたが私を食べてしまえばこれは天帝の命に逆らうことになります。もし私の言うことが「うそ」だと思うなら、私について歩いていらっしゃい。どんな動物でも、みんな私の威光を恐れて逃げ出しますから」といった。**とら**は、なるほどと思ったので**きつね**のあとについて歩いて行った。はたして百獣はみな逃げだした。**とら**は百獣が自分を恐れて逃げたということを知らないで、**きつね**を恐れたのだと思いこんでいた。(戦国策)

虎の尾を踏む

非常な危険をおかすことをいう。書経「心之憂危、若履二虎尾一涉二于春氷上」

虎は死して皮を とゞめ 人は死して 名を 残す

とらは、死後は美しい皮となって長く残るが、人も死後は生前の名誉が永久に残って、人々の間に語り伝えられる。人は名誉を重んじなければならぬということ。

虎を 描いて 狗(いぬ)に類す

へたな画家の描いた**とら**は犬に似ている。すなわち物事を学んで失敗するたとえ。またセンスのない人が、すぐれた物事をまねたのはよいが、かえって見苦しくなることをたとえる。後漢書「いはゆる虎を画きて成らずかへりて狗に類するものなり」川柳に「猫でない証拠に竹を書いておき」

市(いち)に虎あり

無実の事も言う人が多いと、聞くものもいつか信ずるようになることをいう。「三人虎を成す」も同意。

中世のヨーロッパに魔女狩りというのがあった。キリストの教えに忠実でなかったり、僧侶にとって気にくわない女は、悪魔と交わったという罪状で、針責めの**ごうもん**にかけられて自白の末、火あぶりに処せられた。もちろん地球上に悪魔など居ようはずもないのだから、完全な「でっち上げ」だが、その自白をたねにまことしやかな本を書きそれが当時のベストセラーとなって、安逸な日を送った僧侶もいるというしかし多くの民衆は、これを恐怖の書として読んだ。現代アメリカのマッカーシズムを評して、魔女狩りといっているが、これはまさしく要を得た評言。

苛政(かせい)は 虎よりも猛し

むごい政治のおそろしいことをいう。礼記「曰、小子識レ之。苛政猛二於虎一也」

孔子が弟子と共に泰山のそばを通った時、一人の婦人が墓の前でさめざめと泣いていた。孔子がそのわけを問うと「昔、自分の**しゅうと**が虎にかまれて死にました。ついで夫も虎のために殺されたのです。それが悲しくて泣いています」という。

そこで、孔子が「そんな恐ろしい土地をどうして去らないのか」と尋ねるとその婦人は「でも、ここには苛政がありません」と答えた。孔子は弟子たちに向かって「おまえたちよく覚えておけ。苛政は虎よりも恐ろしいぞ」と言った。

騎虎(きこ)の勢い

とらにのって坂道をかけ下りる時は、その勢いがきわめて急なのと、中途でおりると、かみ殺されるのとで、やむをえず**とら**の行く処までかけて行かねばならない。物事の勢いに乗じてやりかけたことを、途中でやめることができなくて、なりゆきにまかせること。

口の虎身を食(は)み 舌の剣 命をたつ

口舌のわざわいは遂にその身を滅ぼすことになるというたとえ。(口と虎は身を破る)

君子は口を惜しみ 豹虎は爪を惜しむ

君子はことばをつつしみ「とら」や「ひょう」はそのつめを大切にして、めったに使わない。

群羊を駆りて 猛虎を攻む

多くの弱者を集めて強者に反抗させることをたとえていう。力の弱い者も集合すれば強力になる意。戦国策「従(しょう)をなす者は、群羊を駆りて猛虎を攻むるに異ならず」「従」は「合従」の意で中国の戦国時代に、蘇秦(そしん)が韓(かん)・魏(ぎ)・趙(ちょう)・燕(えん)・楚(そ)・斉(せい)の六国を従(たて)に連合して、秦に当たらせようとした攻守同盟の政策をいう。横の連合たる「連衡(れんこう)」の対。

虎穴(こけつ)に入らずんば虎子(こじ)を得ず

危険を冒さなければ、すばらしい功名は得られないとのたとえ。後漢書「班超曰、不レ入二虎穴一、不レ得二虎子一」

虎穴に入る 危地にはいること。

虎口を逃れて 竜穴に入る

一難が去って、又それ以上の難に出っくわすたとえ「前門虎を拒(ふせ)ぎ、後門に狼(おおかみ)を進む」趙雪航『評史』「諺曰、前門拒レ虎、後門進レ狼」

暴虎(ぼうこ) 馮河(ひょうが)の勇

とらを手で打ち、黄河を舟でなく徒歩で渡るような無謀な勇気のこと。向こう見ず、命知らずをいう。論語「暴虎馮河、死して悔いなきものにはわれ与(くみ)せず」

李広(りこう)は 石を以て 虎とす

李広が猟に出たとき、草むらの中の石を**とら**と思いこみ、弓を射て矢を突き刺した。しかしこれが石だとわかり、再びこれを射てみたが、もはや矢をたてることはできなかったという故事(漢書)から。一念こめれば何事でもなすことができるというたとえ。

生徒募集

働らきながら学べる高校

多数の若者たちの入学を希望します

新津高等学校 小須戸分校
電話133番

元旦に美女と結ぶ

事実は小説より奇なりと申しますが、世の中には不思議な運命、珍しい経験の持ち主が……

これは高橋アナのセリフですが、私はいい新年雑話を一席。

今は昔、所は鵜出古木の北端といえばかんで外に飛び出した。

ある年の元旦、いち早く目が覚めてガラガラと戸を開けて外に出た。生理作用の為のみでなく、万物一新の風光に接した気持も多分にあった。

元旦を迎える気分は今時の子供たちより、はるかに清新にして意欲的ではなかったかと思う。

地上は白く凍りつき、寸余の紛雪が装いを新たにしている。その時ハッと私は息をのんだ。ひとみがパッと広がるのを意識した。十メートルと離れていない雪上に七・八羽のきじが群居しているではないか。見事な色彩を誇る長い尾が、思い思いの向を示して地上すれすれに微かに動く。私はボウ然として夢か現の境地であったが、突然家に走り込み、父の投網をつ走り込み、父の投網をつかんで外に飛び出した。あわてふためき網の操作も無我夢中、一網打尽と投げかけようとする途端バタバタと飛び立つ空にケンケンケンと甚原指して消え失せてしまった。

さても欲の深き事よと思い出す度に苦笑を禁じ得なかった。投網をつかんだまま飛び去るきじを恨めしげに眺める放心の状態になられた方は、その翌月から受給権が発生し、準母子福祉年金が貰えることになりました。

準母子福祉年金創設等

法改正の国民年金

先号より紹介しております国民年金の改正の解説を、今回もお話し致します。

① 準母子福祉年金の創設について

このたびの改正により新らしく準母子福祉年金の制度が設けられ、その適用が昨年四月一日に遡上って行われ、五月分から支給が開始されます。また五月以降に準母子の障害者に対しては障害福祉年金の支給は行われなかったのですが、改正法により昨年四月一日以降に二級程度の障害を受けた人にも、国民年金から障害年金を支給し、又昨年四月以前に二級程度の障害を受けていた人が、前の障害とは別の傷病によって二級程度の障害を受けた時は、前後二つの障害を併合して一級又は二級の障害年金を支給することになりました。

障害の程度を認定するには、医師の診断によって行われますが、障害年金を受けるには初診日の前日までに、該当する月分の保険料が納入済みになっていなければなりません。

② 廃疾の併合認定について

今まで一級程度以下の障害者に対しては障害福祉年金の支給は行われなかったのですが、改正法により昨年四月一日以降に二級程度の障害を受けた人にも、国民年金から障害年金を支給し、又昨年四月以前に二級程度の障害を受けていた人が、前の障害とは別の傷病によって二級程度の障害を受けた時は、前後二つの障害を併合して一級又は二級の障害年金を支給することになりました。

③ 死亡一時金制度の創設について

保険料をかけて年金が支給されないまま死亡した時は、かけ捨てとなりとかく国民から嫌われていましたが、この不満に応えて死亡一時金制度が設けられ、保険料を三年以上納めた人が死亡した場合、保険料を納めた年数に応じて最低五千円から五万二千円までの死亡一時金がその者の遺族に返されることになり、保険料のかけ捨てによる不満は解消されました。

青年は学習をしている

あすなら青年学級

町の青年と新津高校小須戸分校とが、地味ではあるがお互の共通した問題解決のため、毎週水曜の夜の一日を学習に燃ゆる情熱を発散させている青年学級が、今回県の指定を受けたのを機会に、広く皆さんより理解をしてもらい、より大勢の青年男女の参加を希望しております。

一体、青年学級とはどんなことをするところかといいますと、持論学習活動とはいっても学校教育ではありませんから、学習日の時間配当もみんなの手で、学級生の知りたい所のものから研究、あるいは学習して行くのであり、勤労青少年の自発的共同学習団体であります。

その内容も政治、経済、法律、文学、社会、時局問題等、また体育及びレクリエーションと共に意欲的な自主法のある学習の場であります。

では一体、今迄にどんな学習を開いたかといいますと、新入教授を二度迎えて「友情と恋愛」についての講演をいただきその後で話し合い、また町長さんより「町政について」等。夏期には妙高高原へのキャンプ、護摩堂山のハイキング、映画観賞会、女子学生の実習した料理で今員が舌ずつみをしたことなど……

わずか一週一回の学習で年間二〇〇時間という大切な学習が身につくことであります。また経費等についても県と町の補助により、学級の経費がまかなわれますし、法的にも裏づけされた組織であり、青少年の教育の場としてもっとも重要なものであります。

今後は現在の学級生と新入学級生と共に楽しいあすなら青年学級にしたいと思っておりますので多数の青少年男女の参加を待つと共に、発展的前進をしたいものであります。学習希望申込は

小須戸町公民館に
電二七〇

消費者でもっと 衛生にかんしんを

二十日、午後一時より三時まで、公民館二階で小須戸食品衛生協会と婦人会では、新津保健所の渡辺衛生課長ならびに監視員の梶井、坂井、灰野氏等をかこんで「食品に対する衛生思想を深める話し合い」がかわされた。

そのまま喰べる食品が何千メートルという山でまた岩場にしか無いということと、大量生産にもっていっても原料等の関係で、夏場には作業ができないことがあり、年間通年大量生産はどうも研究しなければならない点だと思います。

現在、県、国等がこの原料の方面で動きだしつつありますので、今後の生産面については明るいものがあるようですが、まあ大切にしていかなければならない段階ではないかと思います。

県内での、この方面の生産業者も二・三カ所はあるそうですが、国内に流している家内工業的なものではないかということです。

「現在、本格的に生産にのりだしつつあるところは、私の外二・三カ所だけのようですが、今後の原料等のことなどを考え合わせて、進めてゆくつもりですよ」と木村社長はことば少なく話してくれた。

産業めぐり その十二
輸出の花形 つりしのぶ
日本しのぶ工芸社

今回は貴重な外貨獲得に一助している産業、日本しのぶ工芸社が矢代田地内元新潟鑛業あとにあるが、ここを紹介しましょう。

ここでは昨年新潟日報社が紹介してありましたように、しのぶのつるを原料としてツル、カメ、ゾウ等というような形を作り、毎年夏になると青々とした芽を出して、とても涼しい気持ちにさせてくれるものです。

では一体これはいつ頃から作られ、どんな方面に流れているのでしょうか。これはもう数十年前より家内工業的には進められてはいたが、今回の工芸社はこれを一つの産業的に経営するものであります。

では原料はどんな処にあるかといいますと、高い山の岩場に多くありますので、その採集にはとても困難をきたし、年間を通しての作業に原料が間に合わないというのが現在のすがたです。

しかし植物学上日本全土にあると云うことが分ってはいるだけに明るい見通しです。

また出来あがった製品は国内に売り出されるものは数にはならず、大部分がアメリカ、ヨーロッパ等の外地に輸出されて行きます。ですから外貨獲得に一役かっているわけです。

ところで大きな外貨獲得には良い産業であると思われるのですが、第一にこれをはばむものは原料であります。日本のアルプスといわれるような道ばたにひとしい処に並べられていたり、きたない手で扱われても、あえて気にせぬ習慣がなかなかなかなか気づかれない。これでは売る方も売れさえすればよいということにもなるので、婦人会あたりから、もっと関心をもってほしいと話し合った。

サル(つりしのぶ製品)

毎月20日 商店街の 休日

お買い物は前日にどうぞ…

小須戸町商工会

おわび

新年は新年号で寅年に因んだ話のこらないものを選びました。

幼児のしつけ方、ほか皆様から沢山いただいた原稿は、次号に掲載いたします。

御諒承願います。

編集部